

平成 18 年度安全保障国際シンポジウム

- 1 テーマ：「台頭する中国とその限界―岐路に立つ中国―」
(China's Rise and its Limitations: China at the Crossroads)
- 2 日 時：平成 19 年 2 月 1 日（木）
- 3 場 所： グランドヒル市ヶ谷 3 階 瑠璃の間
新宿区市谷本村町 4-1 電話 3268-1111（代表）
- 4 プログラム：

【開 会】（議長：小川 伸一 防衛研究所研究部長）

1000～1005 開会挨拶（石井 道夫 防衛研究所所長）

1005～1010 来賓挨拶

1010～1020 議長からの趣旨説明、発表者等紹介

【第 1 セッション】（議長：小川 伸一 防衛研究所研究部長）

～ 中国は安定的に発展するのか、そしてその対外行動はどうなるのか ～

1020～1045 発表 「資本主義へ移行する中国経済の現状と課題」
関 志雄^{かん しゅう}（野村資本市場研究所シニアフェロー）

1045～1110 発表 「中国の対外行動に関する国内政治上の制約要因」
松田 康博（防衛研究所主任研究官）

1110～1125 休憩

1125～1230 コメント
高木 誠一郎（青山学院大学教授）
討議・フロアからの質問

1230～1350 昼食・休憩

【第2セッション】（議長：金子 譲 防衛研究所上席研究官）

～ 中国は軍事力をどこまで増強したいのか、それはどの程度実現できるのか ～

1350～1415 発表 「中国は軍事力をどこまで増強したいのか、それはどの程度実現できるのか—海のドラゴン—」
バーナード・D・コール（米国／国防大学教授）

1415～1440 発表 「中国の軍事力追求
—国内統制、周縁拒否、限定的前方展開—」
M・テイラー・フラベル（米国／マサチューセッツ工科大学
助教授）

1440～1540 コメント
マイケル・スウェイン（米国／カーネギー国際平和財団上席
研究員）
討議・フロアからの質問

1540～1600 休憩

【第3セッション・総合討議】（議長：小川 伸一 防衛研究所研究部長）

～ 中国が『責任あるステークホルダー』であるために必要な要因は何か ～

1600～1625 発表 「中国が『責任あるステークホルダー』であるために
必要な要因は何か」
アーロン・L・フリードバーグ（米国／プリンストン大学教
授）

1625～1745 総合討議及び議長総括

1745～1750 閉会挨拶（林 一也 防衛研究所副所長 陸将補）